

未来志創

よし！廣晴ろう！

「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見える

「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える

皆さんはこのフレーズを知っていますか？東日本大震災の直後から流れたAC（公共広告機構）のCMをきっかけに世に広まったともいえるフレーズです。昨日の終学活での話も「こころづかい」「思いやり」につながるものです。36人それぞれが自分のことだけ考えて行動していると、クラス全体としてはなかなかうまくいかないものです。小さなことでもよいです。誰かのために行動してみてもいいでしょうか。今日の話も、昨日に続き「与える」「与えられる」に関するお話です。

「与える者は、与えられる！」

結核がまだ“死に至る病”だった頃のアメリカのある病院のお話です。

その病室にも死の宣告を受けた7名の患者が入っておりました。ジミー・カーチスは、その一番窓に近いベッドに寝ていました。自分で動くことができない患者の中で、ジミーだけが唯一、窓の外を見ることができました。

死と隣り合わせの同室の患者は、みんな心がすさんでいました。その患者を前にして、ジミーは窓から見える光景を、みんなに語り伝えるのです。

「おーい、みんな、今日は子どもたちが遠足だよ。黄色いカバンをさげている子がいるな。いやあ、ピンクの帽子をかぶっている子もいるよ。かわいいな。3番目と4番目の子が手をつないで歩いている。きっと仲良しなんだろうなあ。あ、空には黄色い蝶々が飛んでいるよ。」

ところがある日、朝起きてみると窓際に寝ていたはずのジミーがいません。昨晚、亡くなったのです。すると、入口から2番目のベッドに寝ていたトムという男が「俺をジミーが寝ていた窓際にやってくれ。」と頼むのです。

しかし、看護婦さんたちは顔を曇らせて、なかなか言うことを聞いてくれません。業を煮やしたトムは、声を荒げて怒鳴ります。それで仕方なく、看護婦さんたちはトムを窓際に移します。

喜んだトムは「俺はジミーみたいに外の景色をみんなに話してなんて聞かせないぞ。自分だけで楽しむんだ。」そう思って窓の外を見たのでした。ところが、窓から見えたのは、灰色の古ぼけた壁だけだったのです。その瞬間、トムはジミーの思いがすべて分かったのです。

「ジミーは、壁しか見えないのに自分たちのすさんだ心を励ますために、その壁の向こうに広がるであろう素晴らしい世界をああやって語り聞かせてくれたんだ。それに引き換え、自分ときたら、自分だけ楽しもうなんて何という恥ずかしい自分であろうか。」心から懺悔したトムは、ジミーに負けないくらい、素敵な思いやりをもって、次のように語り聞かせるようになったのだ。

「おーい、みんな、今日は花屋さんが通るぜ。車の中はバラの花でいっぱいだ。前のほうは、あれはパンジーの花だな。あの隣の黄色いバラ、甘い香りがするだろうな。」

きっとジミーは、みんなが元気になったり、喜んでくれたりすることが、自分自身の喜びだったのではないかな、と思います。心から相手のことを思いやった行動は、自分から言わなくとも、ちゃんと伝わっていくのですね！